

第4回 三田市地域公共交通活性化協議会 議事録

【日時】令和3年1月12日(水) 14:00～15:30

【場所】三田市役所本庁舎 302 会議室 B

【出席者】委員：14名(6名欠席)

土井 勉、北川 博巳、日下 直哉、田中 祥敬、阿部 保博、佐々井 孝一、橋本 学、田橋 一、藤田 幸治、久高 輝之、田原 幸司、大熊 浩志、小畑 正則、中野 安裕

オブザーバー：2名

三宅 豊文(兵庫県交通政策課副課長)、竹内 宏(神姫バス株式会社計画課地域公共交通担当課長)

随行者：3名

傍聴者：5名

事務局：5名

都市政策室長 小倉、交通まちづくり課長 高寺、交通まちづくり課係長 北村、交通まちづくり課係長 上田、交通まちづくり課 山内

【次第】

1. はじめに
2. 協議事項
 - (1) 阪急バス(株)路線廃止
 - (2) 神姫バス(株)路線短絡
3. 報告事項
 - (1) 神姫バス株式会社の取り組みについて
・「999 バス」 ・貨客混載サービス
 - (2) 高齢者交通行動調査
 - (3) 広野地区における試行運行
 - (4) スマートモビリティサービスの推進にむけた神姫バス(株)との協定
 - (5) 公共交通へのコロナ支援
 - (6) ハイビーム活用路線の指定について(三田警察署交通課)
4. おわりに

【会議の概要】

(会長挨拶)

皆様ご参集いただき感謝申し上げます。

それでは議事の進行をさせていただきます。

まず出席委員数につきまして、事務局からご報告願います。

(事務局)

本日の出席委員数は、委員総数 20 名に対し、14 名出席です。

本協議会設置要綱に基づき、委員総数の 2 分の 1 以上が出席しているため、本日の会議は成立しています。

また、本協議会設置要綱の規定に基づき、原則公開とします。

傍聴者は 5 名です。

(会長)

まず、議事次第の 2 番の協議事項、1 と 2 の説明をお願いします。

協議事項(1) 阪急バス株式会社路線廃止(2) 神姫バス株式会社路線短絡について事務局より説明。

【東部三田線の廃止及び短絡について】

東部三田線：現在、阪急バスと神姫バスが共同運行。

三田駅北口バス停から北上し、成谷口バス停を經由し宝塚市域西谷地区に入り、東部バス停までの全長 12.6 キロ、26 のバス停がある路線。

運行については、阪急バスが平日土日祝日の午前 3 便、神姫バスが平日の午後 1 便を運行。

「阪急バス（東部三田線の廃止）」

- ・三田駅（北口）から続く宝塚市域の普明寺橋バス停までの 15 停留所が廃止。
- ・宝塚市域の波豆から東部までは引続き運行。

「神姫バス（東部三田線の短絡）」

- ・宝塚市域並びに宝塚市域から続く羽東川バス停までの 13 停留所が休止。
- ・三田市域で休止される停留所は、1 停留所。
- ・今回の短絡に伴い、転回場所として新たに設置が予定されている関学千刈キャンプ前停留所を含め三田市域のバス停は残ることになる。

この度の路線の廃止、休止及び短絡の時期については、いずれも今年の 4 月 1 日の予定。

主な理由は、当該路線の利用者の減少。

地域の皆様は、廃止や休止に理解されています。廃止や休止となった場合の代替手段、代替交通については、今後、市が創設した「みんなで育てる地域内交通検討支援プログラム」を活用し、新たな交通、地域内の交通の導入に向けて検討する予定です。

4 月からの阪急バス午前便の廃止への対応については、当面の措置として、現在、午後 1 便を運行している神姫バスにおいて、三田市域内の沿線住民の交通手段の確保という観点から、関西学院大学千刈キャンプの協力を得、ここを折り返しとして、三田市域内の運行が継続されます。

運行については、三田市域での平日 2 便に加え、土日祝日についても 2 便の運行を確保

する予定です。

新たな停留所の関学千刈キャンプ前は、香下峠から西に位置します。

【阪急バス武田尾線について】

J R武田尾駅にある武田尾バス停から北上し、三田市域の波豆川バス停までの路線です。午前・午後1便運行されています。

廃止区間は、宝塚市域の上左曾利バス停から三田市域の波豆川バス停までの間で、三田市域で廃止されるバス停は1停留所。宝塚市域については残ります。廃止の時期は、今年の4月1日の予定です。

廃止の理由としては、利用者の減少です。この路線について三田市内の利用者はありません。

(会長)

協議事項は、阪急バスの路線の廃止と神姫バスの路線の短絡です。当面は神姫バスの路線短絡で午前便のカバーをするので、三田方面への移動は確保されているが、このルートで宝塚方面に行くのは、厳しい。

2つ目に、現在の阪急バスは、複数の市町を横断されているので、幹線補助が出ています。それは、路線廃止に伴ってなくなる。一方で、神姫バスの路線短絡は、三田の中で路線が完結する。それについては、幹線補助はないということです。

(副会長)

阪急バスと神姫バスの対応が混在するため再度説明をお願いします。また、1ページの数値では、1便だけ出て18人乗っているとなっている一方で、逆方向の下りは2.2人と大差がありますが、これはなぜですか。

(事務局)

現在は三田駅北口から東部まで、阪急バス、神姫バス両者が運行している状態です。内容につきましては阪急バスが午前3便、神姫バスが午後1便運行しています。こちらが阪急バスは宝塚エリアのみを運行することになり、神姫バスは新たに設置する千刈キャンプ前を折り返し地点として、三田市域のみ運行することになります。三田市域での運行は、これに伴い、神姫バスによる午前1便、午後1便の合計1日2便の運行が予定されています。

神姫バスが現在運行している東部三田線の午後便、上りと下りの利用者数が極端に違う点については、三田駅に向かう便のうち成谷口から三田駅北口までの間で、中央病院のバス停留所を使って定期的に三田駅に向かう寮生がいるため、一時的に利用者が伸びる日があり、5日平均を取ると、上りで18となります。

(A 委員)

宝塚市との地交会議の関係が何かあるのであれば報告頂きたいです。

(B 委員)

今回の路線廃止の概要については、事務局からの説明通りです。

宝塚市側での地交会議は、Web 会議を 1 月 20 日に予定しております。路線廃止に至った概要をお伝えして、皆様に協議をしていただくということになります。

宝塚市でも沿線地域の方には既にご理解いただいている流れを汲んでの地交会議です。

(土井会長)

休止と廃止の違いが分からない方もいらっしゃるかもしれないので説明をお願いします。

(B 委員)

阪急バスでは、利用の減少と、運転手の要員の確保に苦慮しています。これまで阪急田園バスは、阪急バスの不採算路線を中心に、運行管理業務を委託し、人件費を抑制した中で、事業を行っていました。一昨年吸収合併により、総額の人件費が上がってくるため、路線の抜本的な見直しをしなければならないという中で運行をしています。

宝塚市の西谷地域は、人口構造的になかなか回復していく見込みが少ないことから、今後、路線の復活というのは、現実的でないことから路線廃止で、準備を進めていきたいです。

(C 委員)

神姫バスは、完全撤退ではなく、一旦は休止という意味です。

(副会長)

新設で関学の千刈キャンプにバス停をつくるということなので、そこを接続部分として、何とか線として維持する考え方もあり得ると思います。これは意見として、申し上げたいです。

(B 委員)

今回廃止する路線は、東部までの利用を見てもかなり少ないことと、宝塚市側では鉄道接続が主な利用理由であることから、東部では、武田尾駅に接続している路線への乗り換えになってくると考えています。路線を接続して残しておくという判断もあると思いますが、現状ではそういった乗り換え利用もないことから、宝塚市の波豆を終点に路線の見直しを行うものです。

(会長)

路線バスとしてのダウンサイジングをする場合、昨年11月に改正された、地域公共交通活性化再生法では、継続事業というのが新しくできました。路線バス、コミュニティバス、それからデマンド、乗りあいタクシーみたいな大きなものから小さなものに変えていくということに対する補助事業メニューができていますことご承知おき下さい。

協議事項について異議がない場合は拍手をお願いします。

(拍手)

この件については、皆様の賛同を得て協議が調いました。

次に、報告事項につきまして、担当の皆様からよろしく願いいたします。

【999 (サンキュー) パスについて】

(C 委員)

今回ウッディタウン地区を、30日間999円で乗り放題という企画乗車券を今回12月より販売を開始しました。

当社初めての試みです。目標総数は300を今目指していますが、12月末現在での登録者数は47名です。

目的の顧客・お客様は、家族連れです。今後も順調にこれからも登録も含めて目標まで伸ばしていけたらと考えています。

【貨客混載サービスについて】

(C 委員)

高平地区における路線バスを活用した貨客混載サービスの実施についてです。利用者が減少している三田小柿線の路線バスを利用します。JA兵庫六甲様、高平地区の生産者様の3者の思いが合致し、当社の路線バスに、高平地区で生産された野菜類をパスカルさんだ一番館までお運びする新たなサービスです。今回は実証実験として行いますが、今後色々な路線バスにおいてのサービスを提供していけるきっかけにしていきたいです。

【高齢者交通行動調査について事務局より説明】

(詳細は当日資料参照)

高齢者交通行動調査の趣旨は、交通施策検討資料とするためです。

回収率は、本日現在で約57パーセントです。

【広野地区における試行運行について事務局より報告】

(詳細は当日資料参照)

使用車両は 8 人乗りワンボックス（市で手配）です。運転手を除いて 1 便につき 7 名までが乗車可能です。

【スマートモビリティサービスの推進に向けた神姫バス株式会社との協定について事務局より説明】（詳細は当日資料参照）

【公共交通へのコロナ支援について】

（事務局）

市では新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、公共交通事業者が車内等の密度を上げないよう便数に配慮した運行に取り組んだ場合に、その運行に要する経費について、国による運行支援期間の終了後、最大 60 日、実証運行に限り、補助することとします。

予算は、昨年の 12 月補正予算で成立しており、合計 13,483 千円の予算措置となります。

【第 3 次補正予算について】

（A 委員）

コロナの影響を受けているバスタクシー事業者は更に厳しい状況だと思います。国もまた第 3 次補正ということで支援をさせていただきます、305 億円には観光庁の予算も含まれます。全国ということになると厳しい状態で、全額補助ではありませんが、臨時交付金の活用についても自治体の皆さんにご活用頂くようご協力をお願いしたいです。

【ハイビーム活用路線の指定について】

（D 委員）

ハイビームの活用モデル路線の指定についてお願いをさせていただきます。県下の死亡事故の発生状況について、去年は、兵庫県では統計を取り始めて以降、110 名と過去最少の死者数となりました。県警として、夜間ハイビームを活用していただくことを推進するために、各市町においてもハイビームの活用が効果的なモデルとなる路線を指定し、この春までに各市町で 1 路線以上指定したいと考えております。

現在県下では、福崎と尼崎市内で 4 路線指定しています。三田市市内においても、高齢者が巻き込まれる交通事故が発生しております。そのような路線等を分析し、道路管理者や三田市にご協力をいただきながら、春までに 1 路線を指定して更なる事故防止に努めてまいりたいと思いますので、今後ともご理解とご協力の方をお願いいたします。

（事務局）

最後、兵庫県知事からの感染防止徹底要請について情報の提供をさせていただいています。ご協力をよろしくお願いいたします。報告事項は以上です。

(副会長)

貨客混載について、積み下ろしはどなたがすることになるのですか。それから荷物の置き場所がどこか固定対策はどう考えてらっしゃるのか。車いすスペースが少し空いているので活用ということもあり得るだろうが、車いすのスペースなので、その辺の考え方について確認したいです。

(C 委員)

生産者様からの積み込みを考えています。コンテナを搭載し、ずれないようにバンドで固定します。車いすスペースはその前にもあり、万が一車いすご利用の方があったとしても対応できるようになっています。三田駅そして福祉保健センター前に到着し、積み込みした野菜については、J A兵庫六甲の職員様に荷物を下ろしていただき、陳列・販売という流れになります。

(会長)

全国的にもこういう取組みが進んでいます。今回実験で検証するポイントで一番大きなところは何かでしょうか。

(C 委員)

野菜の鮮度については、J Aの品質保持ということもあるため、ポイントに挙げたいと思っています。当社の商業ベースですが、今後事業としてどのように成立するのか、拡大できるのかについては、またこの実証実験を通し、J A兵庫県全域で等の広がりを考えていきたいです。

(会長)

出荷だけではなく、売れ残りを引き取る作業も大変だと思います。またそれも、実験の中でそういうこともご検証いただけたらと思います。

(E 委員)

ウッディ 999 パスについて、私も 47 人の 1 人です。今ウッディ内でバスをどのように活用すれば商業施設や病院に行けるのか調べています。この 3 月に終わりますが、利用者に対してはアンケート調査をされるのですか。

(C 委員)

今のところ特にアンケートの予定はないと思っています。今後の取組みで、ご利用者の声というのも反映させていくべきだと思いますので、貴重な意見としてお受けします。

(E 委員)

後日、こういう風にすれば利用者が増えるというのを直接連絡したいと思います。

(会長)

広野地区の試行運行については実現できたらなと思っています。今回は実験なので無料ということですが、実験でなくなると有料ということですか。そうすると、自家用有償になるのでしょうか。

(事務局)

本格運行の際には、市町村運営有償運送といった形で実施していきたいです。有料に関すること、今後協議会でご意見をいただきたいと思っています。その後、運輸局への申請といった流れとなります。

(会長)

デマンドであれば、受付はだれがされるのでしょうか。コスト面は具体的にどうされるのでしょうか。

(事務局)

今回の試行では、前半はシステムを入れずに、地区の受付の方に、頂いたお電話をもとに、紙ベースでやっていただきます。その後、期間の後半でシステムの導入を試験的に行い比較し、検証後、本格運行での導入になる予定です。

(会長)

システムを1回入れてみて、バージョンアップしていくというのは、お金がかかっていきます。利用者さんがそんなに多くない場合は、安くあげる仕組みというのが大事だと思うので、スモールスタートで行く方が良かったと思います。その辺り地域の皆さんとしっかりとご検討いただけたらありがたいと思います。

(会長)

報告事項は以上です。議事の進行にご協力いただきまして誠にありがとうございます。では、会の進行については以上です。

(事務局)

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。また、円滑なご協議により、司会の進行にもご協力いただきありがとうございました。次回は、先広野地区での試験運行でのご報告、これと併せて本格実施に向けました自家用有償旅客運送の実施につい

て、ご協議させていただく予定です。開催の時期については、改めてご連絡をさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

なお、本日お車でお越しの方につきましては、お帰りの際に処理をいたしますので事務局の方までお声がけください。

(会長)

こういう会議ですからできるだけ電車、バスあるいは徒歩で来ていただけたらありがたいです。ご協力よろしくお願いします。

(事務局)

第4回三田市地域公共交通活性化協議会につきましては以上となります。皆様お手元お荷物忘れ物のないようご確認のうえお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。